



北海道大学病院 臨床研究中核病院整備事業

北海道大学病院は、厚生労働省が公募した「平成24年度臨床研究中核病院整備事業」の一施設として採択され、10月26日より正式に事業をスタートいたしました。

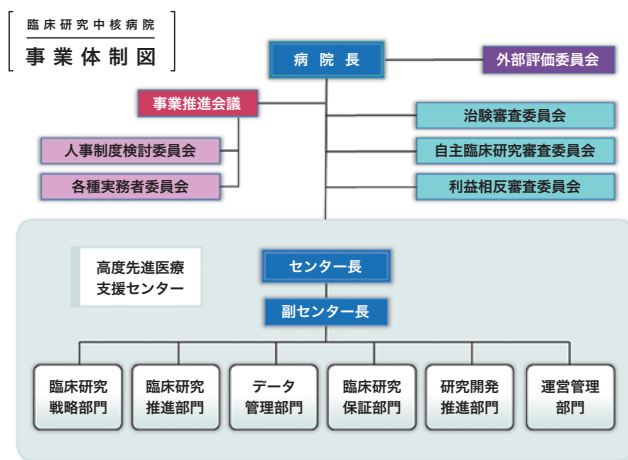
本事業は、日本発の革新的な医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患や小児疾患等の新規治療開発、最適な治療法の確立をめざし、国際水準の質の高い臨床研究を実施することを目的としており、当院は臨床研究中核病院としてその中心的な役割を果たします。

事業期間は、平成28年度までの5年間で、毎年度、設備・組織の基盤整備に5億円程度、及び研究費に1億円程度が交付され、総額約30億円となるものです。

この中で北海道大学病院は、以下の5点を柱とした事業を推進し、「信頼される臨床研究」を「北海道から世界へ発信する」臨床研究拠点となるべく尽力してまいりますので、ご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。

以下の5点を柱とした事業を展開することで
日本の臨床研究の推進に貢献いたします

- ① 病院長の責任下での体制の確立
- ② 出口を見据えた臨床研究体制の整備
- ③ ICH-GCPに準拠した臨床研究の実施
- ④ 多施設共同研究体制の整備
- ⑤ 国民の理解に基づく臨床研究の実施



《第一回 臨床研究中核病院事業シンポジウム 開催》

本事業の開始にあたり、11/7(水)京王プラザホテル札幌エミネンスホールにおいて「第一回臨床研究中核病院事業シンポジウム」が開催されました。講演会には医療機関、製薬会社の関係者及び一般市民の方等、総勢125名の方にご出席いただきました。講演内容に会場からも多数質問が上がり、大変有意義なシンポジウムとなりました。

今後も当センターではこのようなシンポジウムを定期的に行い、臨床研究を通じた新しい医療の発展に貢献して参ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。



眼科外来新患予約制と黄斑外来開設

外来医長 新明 康弘

眼科外来は平成23年7月から、新患も含めた完全予約制に移行しました。眼科外来を初めて受診される方は、紹介元病院から地域医療連携福祉センター宛てにFAXで診察申し込みをして、新患日(月・水・金 午前8:30～10:30)に予め予約を取る必要があります。<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/index.html>

これは、専門外来をより充実させるための処置と、ご理解いただけますと幸いです。そのような中で、眼科外来では、平成23年4月からは、12番目の専門外来として黄斑外来を新設いたしました。今回は、この「黄斑外来」について御紹介させていただきます。

なお初めて北海道大学眼科外来を受診される際には、まず専門外来ではなく、新患として一般外来を受診していただく必要があります。今後も大学病院の役割として、より高度に専門化した医療を目指して、地域の先生方と役割分担を進めていきたいと思ひます。

平成24年度 眼科専門外来体制

	月	火	水	木	金
午前		ぶどう膜炎		眼循環代謝	
午後	網膜硝子体 涙道	斜視・小児眼科 角膜移植 眼アレルギー	緑内障	眼形成眼窩 黄斑(New!)	神経眼科 白内障

<http://eye.med.hokudai.ac.jp/0501.html>

黄斑外来の御案内

責任医師 吉沢 史子 助教

近年、高齢者人口の増加や生活習慣の欧米化に伴い、成人(特に50歳以上)の中途失明の主要な原因として加齢黄斑変性症(AMD)が注目されています。

AMDは、加齢と共に網膜の中でも視力をつかさどる主要な細胞が集中している“黄斑部”が障害される疾患です。黄斑部に脆弱な“新生血管”が形成されることで、出血や浮腫をきたし、歪みを生じ視力が低下します。

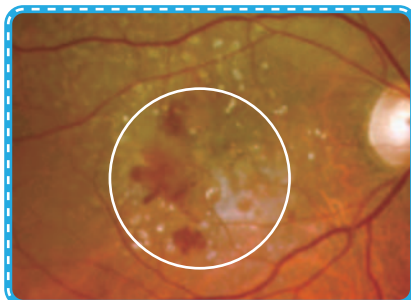
高齢化社会に伴い急激に患者数が増加していることと、ここ5～6年で治療法が飛躍的に進歩したことから、当科ではAMD患者さんを中心に診察を行う専門外来として、黄斑外来を開設しました。

現在、AMDの治療は、新生血管の増殖や成長を抑制する抗血管新生薬(ルセンティス® マックジェン® など)の投与と、新生血管を閉塞させるレーザー治療(光線力学療法)が中心となっています。特に当科では、更にステロイドを組み合わせる治療法を行っており、良好な治療成績を得ています。

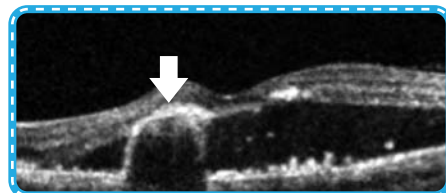
また、網膜の構造を非侵襲的に観察できる光干渉断層計を用いることで、初期の小さな病変を発見し、視力や病状により適切な治療法をご紹介します。AMDは、“早期発見・早期治療”の時代を迎えており、高齢化社会の現在、ますます患者さんの数が増えることが予想されます。黄斑外来では、最先端の治療をご紹介しますながら患者さんのQOV(quality of vision)の維持、改善に尽力していきたいと考えております。



▲光線力学療法
黄斑部の新生血管に対し、拡大レンズを眼前にかざしレーザー照射を行っている。照射には専門の認定資格が必要。黄斑外来ではほとんどの医師が資格を有している。



▲加齢黄斑変性症の眼底写真
黄斑(円内)に出血がみられる。



▲光干渉断層計の画像
網膜を立体的に観察でき、病変部(矢印)の検出が簡便に行える。

乳がん診療のご紹介

診療科長 山下 啓子

北海道大学病院 乳腺・内分泌外科は、乳房の病気、特に、「乳がん」を診療の中心として、平成24年4月に外科診療科再編に伴い新設されました。

乳がんの診療においては、診断から治療まで一貫して行い、生活の質(QOL)と心のケアを第一に考慮した診療を心がけています。腫瘍センター、外来治療センター、放射線部、病理部などとチーム医療を行うことにより、手術療法・薬物療法・放射線療法全般にわたり、乳がん診療のガイドラインに沿った世界標準治療を実践しています。

乳がんについて

乳がんは、日本人女性において1990年代後半から「がん」の罹患率の第一位となり、増加の一途をたどっています。この20年間で25歳以降のいずれの年齢層においても約2倍増加し、現

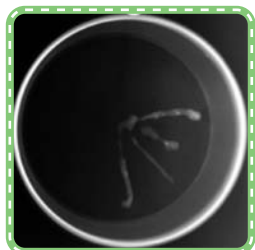
在、1年間に約5万人の新たな乳がん患者さんが見つかります。

乳がんの診断

乳がんは、視触診、マンモグラフィー、エコー、MRIと針生検(マンモトーム生検)で確定診断します。

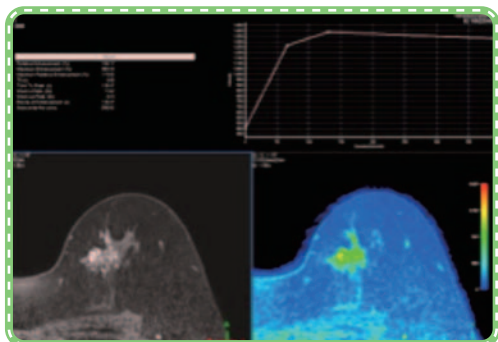
●ステレオガイドマンモトーム生検

マンモグラフィーで乳がんを疑う微細な石灰化が見つかった場合、マンモグラフィー下に行う針生検です。石灰化を含む乳腺組織を採取し、病理検査を行います。



●MRI

北海道大学病院 放射線部では、乳房検査専用の「3テスラMRI」という非常に精密に乳がんの広がり进行评估できるMRI装置を使って診断しています。手術の方針決定と、乳房温存手術を行う場合の切除範囲の決定に役立てています。



乳がんの治療

手術、薬物療法、放射線療法があります。ひとりひとりの患者さんの乳がんの性質や進行度などを考慮して、最も適した組み合わせで治療を行います。

(1)手術療法

1)乳房温存手術と乳房切除術

乳房温存手術が第一選択ですが、がんが広範囲に広がっている場合は乳房切除術の適応となります。

2)センチネルリンパ節生検と腋窩リンパ節郭清術

画像診断で腋窩リンパ節に転移がないと考えられる患者さんはセンチネルリンパ節生検の適応となります。ラジオアイソトープ(RI)と色素を併用する方法によりセンチネルリンパ節を同定しています。



(2)薬物療法

乳がんの手術を行うほとんどの患者さんに、現在、再発を防ぐための薬物療法が必要であると考えられています。乳癌組織などの病理検査所見をもとにどのような薬物療法を行うかを決めます。現在行われている乳がんの薬物療法には、ホルモン療法、化学療法、HER2に対する治療、血管新生阻害剤、骨転移に対する治療薬があります。

外来診療の紹介

外来医長 山田 聡

循環器内科では、虚血性心疾患、不整脈、心筋症、弁膜症や先天性心疾患などの心疾患と大動脈および末梢の血管疾患、さらには、これらの心血管病の危険因子となる高血圧など幅広い循環器疾患を対象とし、ご紹介いただいた患者さんに質の高い安全・安心の循環器医療を提供することを目指して、日々の診療に取り組んでいます。

循環器領域の多岐にわたる診断法と治療法の進歩により、近年、患者さんの生命予後は目覚ましく改善し、旧来の医療では回復が望めなかった重症患者さんでも社会復帰する機会が著しく増加してきています。このような背景の中で、患者さんの生活の質を向上させ社会復帰に導くために、心臓リハビリテーションの役割が重要になってきています。一方で、あらゆる疾患の終末像としての心不全は重症化・難治化し、大きな社会問題となっています。この心不全に関しても、当院は最後の砦として機能しており、薬物治療を基本として、心臓再同期療法(CRT)などの非薬物療法も取り入れています。さらに、心臓移植の実施施設に認定されたことを受け、循環器外科と循環器内科が中心となり全病院をあげて心臓移植の準備に取り組んでいるところです。

本稿では、この中からいくつかの診断法と治療法をご紹介します。

1. 心臓カテーテル法

当院では、本年、新しいシネアンギオ装置が導入されました。患者さんの「症状の改善」はもちろんのこと、「長期予後を重要視した有意義な治療を行うこと」を前提に、ガイドラインに準じた適切な診断と治療を行っています。地域の先生方のお役に立てるよう、「虚血性心疾患外来」を開設しました。疾患のスクリーニングから精査、そして治療の依頼まで、幅広く活用していただけます。さらに、高齢者の硬化性大動脈弁狭窄症に対する経皮的動脈弁形成術も多くの先生方から依頼していただいています。

2. 不整脈・電気生理学

難治性不整脈に対する薬物治療、カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)、植込型除細動器(ICD)やCRTに取り組んでいます。近年、心房細動に対するカテーテルアブレーションの有用性が認識されています。発作のコントロールが難しい症候性の発作性心房細動では、左房径が大きくなならないうち(50mm未満)にご紹介下さい。4割では2回の治療を要しますが、8割以上の根治・著効が期待できます。

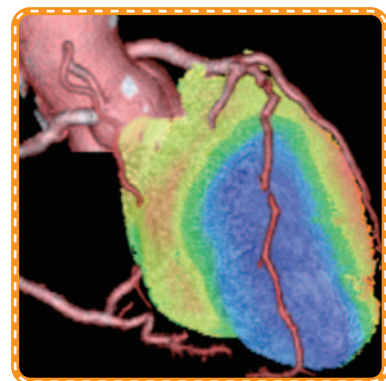
3. 心臓リハビリテーション

現在、虚血性心疾患、慢性心不全、開心術後などに心臓リハビリテーションが適応となります。最近では、心不全の急性期からリハビリテーションを導入することが推奨されています。当院では、最近5年間で症例数が増加し、今では1日25名程度の患者さんに実施しています。医師、理学療法士、看護師のチームで、入院患者だけではなく、外来患者にも対応しています。



4. 画像診断法

当院では、最新鋭の心エコー装置、CT、MRI、RI装置を駆使して、最高水準の画像診断を行っています。本年には320列のCTが導入され、冠動脈をはじめとする心臓の画像が今まで以上に高画質になりました。また、冠動脈CTと心筋シンチグラフィのフュージョンにより、より正確な病態把握が可能となり、治療方針の決定に活かしています。MRIも最新鋭の装置(3テスラと1.5テスラ)が導入されており、冠動脈や心筋の性状、心機能などを1回の検査で同時に評価することができ、臨床で威力を発揮しています。



外来診療のご紹介

外来医長 佐藤 千晴

国立大学では日本初の口腔内科の標榜を行っています。「口腔内科」といいますと聞きなれない言葉だと思いますが、「口腔を通して全身状態を診、全人的視野に立って口腔の健康にあたる」学問です。社会的にはまだまだ認知不足ですが、年々、口腔内科的疾患の発生頻度は高まっており当科には全道各地から患者さんが集まっています。

対象疾患

診療の4つの大きな柱は、

①全身疾患と口腔病変との関連

口腔粘膜疾患はウイルス性疾患や天疱瘡、類天疱瘡などの皮膚科的疾患、白血病などの血液疾患の部分症状として出現することがあります。また、シェーグレン症候群、ベーチェット病などでは口腔病変から原疾患が見つかることが多くあります。歯科金属アレルギー、誤嚥性肺炎予防のための摂食・嚥下リハビリテーションも積極的に治療を行っています。

②口腔内科学的疾患

最近増えている口腔乾燥症、舌痛症を代表とする口腔心身症、味覚異常、口腔カンジダ症、口腔粘膜疾患、顎関節疾患、唾液腺疾患、口腔顎顔面痛などが該当します。

このうち、舌痛症では、薬物療法を積極的に取り入れることでかなりの効果を挙げており、医療機関を転々としてきた「さまよえる患者」さん達に救いの手を差し伸べることができるようになりました。味覚異常、口腔カンジダ症の患者さんも急増していま

す。味覚異常の原因として従来から言われてきた亜鉛不足のみならず、口腔カンジダ症、口腔乾燥、舌炎などの口腔疾患の割合も多く認められています。口腔カンジダ症は明らかな要因がない健康な高齢者でも、単に口腔乾燥や多種薬剤の服用、義歯の清掃不良などで発症します。

③有病者の口腔疾患治療

北大歯科診療センターを受診する高齢者の割合は4割でその殆どが、高血圧、不整脈、糖尿病などの基礎疾患を持っています。これらの患者さん達の全身状態を評価し、安心して効率の良い歯科治療の提供を行っています。この一環として医科入院患者さんに対する往診による口腔ケアや、移植(造血幹細胞、肝、腎)や手術前の感染源の精査・治療を積極的に行っています。

④従来の口腔外科的疾患

舌癌、歯肉癌などの口腔悪性腫瘍をはじめ、エナメル上皮腫などの良性腫瘍、外傷、嚢胞、炎症、インプラント、先天性異常などの治療も行っています。

治療方針

口腔顎顔面領域は摂食・嚥下・発音などの重要な機能の他に、審美性が重視される領域であり、人のQOLに大きく影響します。そのため、患者さんの状態を的確に判断し、迅速に診断治療を行うと共に、早期発見による最小限の外科的手術や、機能温存のための内科的アプローチを特徴としています。また、疾患を総合的に治療するために医科の関連各科とも協力して診療を進めています。

診療時間

月曜～金曜の奇数日に初診患者さんの診療を行っています。受付時間は午前8時30分から午後4時です。詳細は口腔A外来(706-4349または内線4349)までお問い合わせ下さい。



北大病院の内科は、平成25年4月から 全て予約制になります

○紹介状を持った患者様が
ご自分で予約される場合



病院からもらった診療情報提供書・紹介状をお持ちの患者様は、ご自分で北大病院内科を予約することができます。

○連携機能協定病院様が
予約される場合



今までどおり、地域医療連携福祉センターに、「医科・予約申込書・医診療情報提供書」をFAXでお送りください。

予約受付は

平成25年3月18日(月)から
スタートします。

内科予約受付の専用電話番号は

011-706-7733 です。

※予約受付時間

月～金 9:00～15:00

様式は、北海道大学病院＞地域医療
連携福祉センター＞様式一覧

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/community/medicalexpert/reservation.html>

FAX番号は、

011-706-7963 です。

※予約受付時間

月～金 8:30～17:00

※平成25年4月から、以下の診療科では診療情報提供書(紹介状)のない患者様は原則受診することができなくなります。

内科I、内科II、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、血液内科

※神経内科は、従前どおり、紹介状と事前予約が必要ですが、患者様が直接予約する電話番号は011-706-6025、受付時間は月～金13:00～15:00です。

詳しくは、http://www.huhp.hokudai.ac.jp/topics/t_20120420.html

地域医療連携福祉センターは今までどおり受付しております。

連携機能協定病院各位におかれましては、ご理解ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

北海道大学病院 内科を初めて受診される患者様へ

内科予約受付は、25年3月18日(月)からです。(神経内科のみ、すでに受付しております。)

患者様ご自身で受診を予約される場合は、下記にお電話ください。

内科予約専用電話 011-706-7733

予約受付時間 月～金 9:00～15:00

以下の内容を確認させていただきます。

「氏名」、「性別」、「生年月日」、「住所」、「電話番号」、
「診療科」、「紹介元医療機関名」

※神経内科の受診を予約される場合は、下記にお電話ください。

神経内科予約専用電話 011-706-6025

予約受付時間 月～金 13:00～15:00

電話予約結果(受診日時・仮受付番号)

月 日() 時 分に受診予約 (月 日電話受付)

仮受付番号「10ー」 (「10ー」を含む全9桁)

※仮の受付番号をお知らせしますので、記入してください(神経内科は除きます)。

◎当日は、紹介状・保険証・本書をお持ちください。

◎予約時間の15分前までにお越しください。

◎来院後、「診療申込書」を記載し初診受付窓口にお出しください。

※「診療申込書」は、北海道大学病院ホームページからダウンロードすることができます。

トップページ > 患者のみなさまへ > 外来受診のご案内 > はじめて受診される方(医科)

URL: <http://www-mhp.med.hokudai.ac.jp/patient/sec/first.html>

※ご都合により、受診ができなくなった場合は、「内科予約専用電話」にご連絡をお願いいたします。

医療機関 各位

患者様ご自身で予約される場合、当院内科あて紹介状をお持ちの患者様にお渡しくделаいますようお願いいたします。お手数ですが、どの内科を受診するかチェックのみお願いいたします。

チェックを入れて下さい	専門分野等
☐ 内科I	呼吸器、循環器(とくに肺循環)、代謝
☐ 内科II	リウマチ膠原病、糖尿病・内分泌、腎臓
☐ 消化器内科	消化器疾患
☐ 循環器内科	循環器疾患
☐ 血液内科	血液疾患、造血幹細胞移植、HIV感染
☐ 腫瘍内科	固形腫瘍(白血病などの血液悪性腫瘍を除く)
☐ 神経内科	脳、脊髄、末梢神経、筋肉の疾患

皮膚科 外来完全紹介制システムの導入のお知らせ

外来医長 阿部 理一郎

北海道大学病院皮膚科ではこれまでも病診連携を推進して参りましたが、平成24年10月1日から病診連携のさらなる徹底のため、初診患者の完全紹介制を導入させて頂くことに致しました。

新システムの概要

1) 紹介状を持たない初診患者に関しましては、まず皮膚科開業医院や一般病院皮膚科を受診して頂きます。受診された医療機関の医師が北大病院皮膚科を受診することが望ましいと判断された場合に、当科への紹介状を持参のうえ、再度来院して頂きます。なお、当

科への紹介に関しましては、北大病院地域医療連携福祉センターを通して初診予約可能です。

2) 緊急性のある患者に対しましては、紹介状を持参していない場合でも当日対応するように致します。

この新システムを導入することにより、限られたマンパワーを、より専門性の高い医療を必要とする患者の診療に集約し、診療の質を向上させることはもちろんのこと、医学部生や研修医にさらに充実したレベルの高い教育を提供することが可能になると考えています。何卒ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

北海道大学病院がん相談支援室のご案内

北海道大学病院のがん相談支援室では、専任の看護師、ソーシャルワーカーがお話をうかがい、がんに関する疑問や悩みなどの解決に向けたお手伝いをしています。

ご相談内容によっては、院内外他職種と連携して対応します。

連携機能協定病院各位におかれましては、がん相談が必要な方がいらっしゃいましたら、ご案内くださいますようお願いいたします。

○相談内容

たとえば…

- ・病気や治療に関する不安や悩みがある。
- ・退院後の生活や介護に不安がある。
- ・在宅サービス(訪問看護・訪問診療・福祉用具など)について聞きたい。
- ・自宅で医療処置(経管栄養、点滴等)が必要になったため不安がある。
- ・介護保険、身障手帳などの社会福祉制度について知りたい。
- ・医療費や生活費のことが心配。
- ・セカンドオピニオンや緩和ケアについての情報が欲しい。

○情報提供

がんに関するDVDの貸し出しや、冊子の配布などしています。

●場所：がん相談支援室

(1階売店「りら」横 地域医療連携福祉センター内)

●相談申し込み方法：予約制

(直接または電話で申し込み)

●電話番号：011-706-7040(直通)

●受付時間：月～金(祝祭日を除く) 午前9時～午後4時

●費用：無料



▲がん相談支援室入口



▲面談室

・ 編 ・ 集 ・ 後 ・ 記 ・

患者さんの身体に直接触れ、ベッドサイドでお話を聞き、一緒に過ごすことに楽しさと遣り甲斐を感じ、9年間の看護師生活を過ごして参りました。

そのような折、当センターに異動となりました。初めは、患者さんと過ごす時間が激減し、看護師としての役割を見失ったように感じました。

ですが、7ヶ月たった今、当センターにおける看護師の役割だけでなく、院内外における退院支援部門の役割の重大さを実感し、直接看護とはまた異なる面白さを感じながら働いております。

これからも、新しいことにどんどん挑戦していこうと思います。宜しくお願い致します。

太田 育実

発行 平成24年11月

北海道大学病院

地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

TEL : 011-706-6037・7943(直通)

FAX : 011-706-7963(直通)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/>